

株式会社キャンバス

《証券コード: 4575》

2015年6月期決算説明会

2015年8月19日

Part 1
2015年6月期決算報告

2015年6月期 決算

1. 決算のポイントとピックアップ

■ 事業収益計上、損失は前期比さらに縮小

- ✓ Stemline社とのCBS9106提携(2014年12月)による収益
 - 契約一時金
 - 技術アドバイザリーフィー → 契約開始から4年間ほぼ安定的な収益となる見通し
- ✓ 研究開発費の大半が基礎研究費

■ 資金調達の状況

- ✓ 第9回新株予約権(2013年12月割当、総額837百万円)
→2015年1月行使完了
- ✓ 第10回新株予約権発行(2015年7月割当、総額1,268百万円*)

* 当初行使価額1,160円で全新株予約権1,100千株分が行使された場合の差引手取概算額

→フェーズ2b試験費用の調達を目指す

2015年6月期 決算

2. 貸借対照表概要

		2014年6月期	2015年6月期	増減(参考値)	(単位:千円)
資産の部	流動資産	343,178	953,097	609,919	
	現金及び預金	323,354	885,355	562,001	
	売掛金	—	50,958	50,958	Stemline社 技術アド バイザリーフィー
	固定資産	54,301	44,762	△9,539	
	有形固定資産	31,411	23,449	△7,962	
資産合計		397,480	997,859	600,379	
負債の部	流動負債	26,166	33,083	6,917	
	固定負債	36,645	—	△36,645	転換社債型新株予約 権付社債転換
	負債合計	62,811	33,083	△29,728	
純資産の部	株主資本	308,176	945,720	637,544	
	資本金	3,335,891	3,788,146	452,255	新株予約権行使に伴う 新株発行
	資本剰余金	3,322,741	3,774,996	452,255	
	利益剰余金	△6,350,241	△6,617,205	△266,964	
	自己株式	△215	△215	—	
	新株予約権	26,492	19,054	△7,438	
純資産合計		334,668	997,859	663,191	

2015年6月期 決算

3. 損益計算書概要

(単位:千円)

	2014年6月期	2015年6月期	増減(参考値)
事業収益	—	60,958	60,958
事業費用	483,814	344,501	△139,313
研究開発費	300,780	164,908	△135,872
販売費及び一般管理費	183,033	179,592	△3,441
営業利益	△483,814	△283,542	200,272
営業外損益	3,585	17,828	14,243
経常利益	△480,229	△265,714	214,515
特別損益	105,210	—	△105,210
税引前当期純利益	△375,019	△265,714	109,305
当期純利益	△376,269	△266,964	109,305

開発費減少
研究費微増

(前期)NEDO助成金

2015年6月期 決算

4. キャッシュフロー計算書概要

(単位:千円)

	2015年6月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	△309,508
投資活動によるキャッシュ・フロー	△530
財務活動によるキャッシュ・フロー	856,042
現金及び同等物に係る換算差額	15,996
現金及び同等物の増減額	562,000
現金及び同等物の期首残高	323,354
現金及び同等物の期末残高	885,355

新株予約権の発行による収入

2016年6月期 業績見通し

2015年8月13日公表

(単位:百万円)

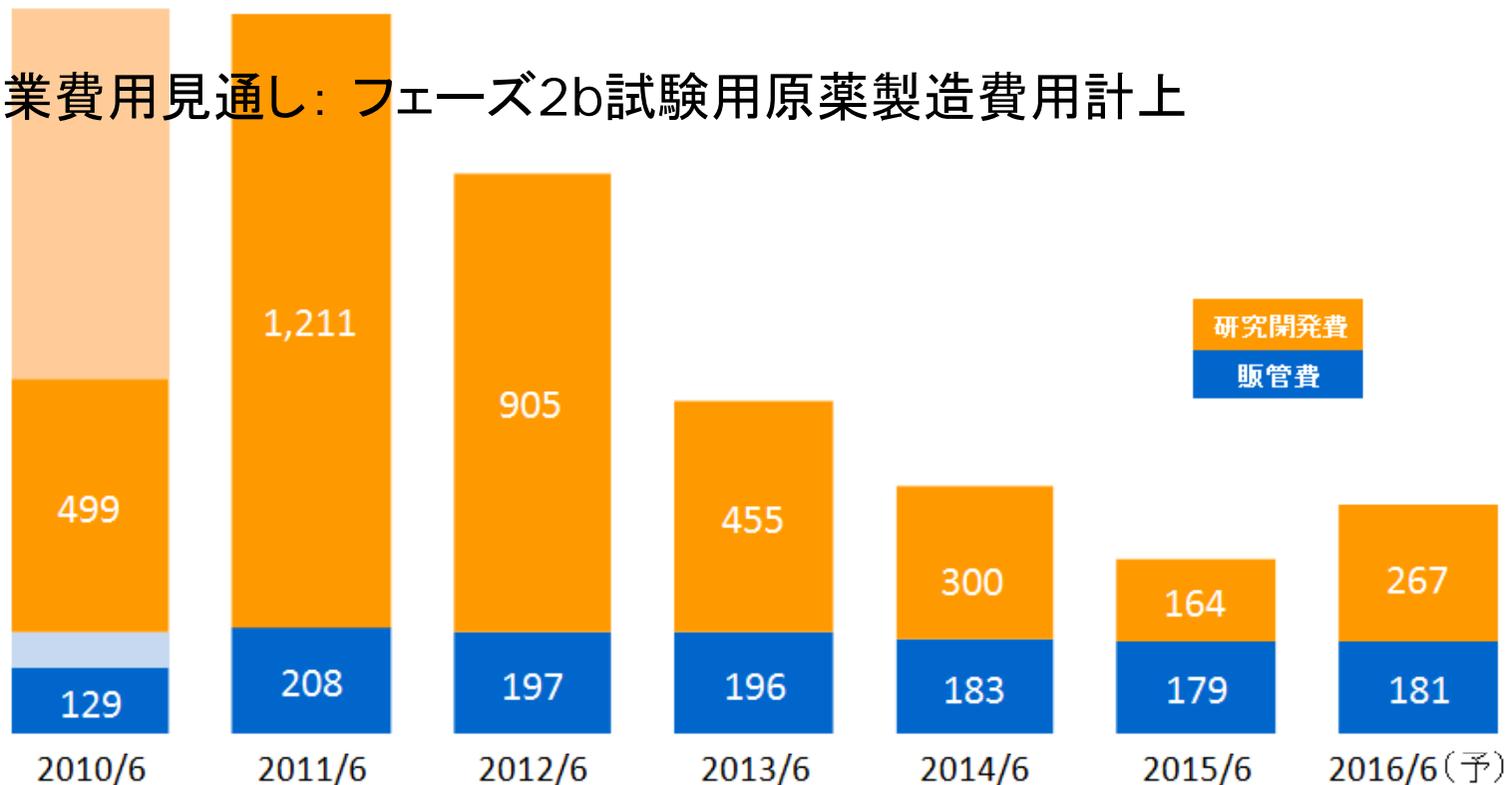
	2015年6月期 期首見通し	2015年6月期 実績	2016年6月期 見通し
事業収益	50 ~1,000	60	105
事業費用	309	344	448
研究開発費	141	164	267
販売費及び一般管理費	168	179	181
営業利益	Δ 309 ~690	Δ 283	Δ343
経常利益	Δ 309 ~690	Δ 265	Δ343
当期純利益	Δ 310 ~689	Δ 266	Δ344

2016年6月期 業績見通し

■ 事業収益見通し：105百万円

✓ 特殊な事態が発生しない限り見込むことのできる最小値

■ 事業費用見通し：フェーズ2b試験用原薬製造費用計上



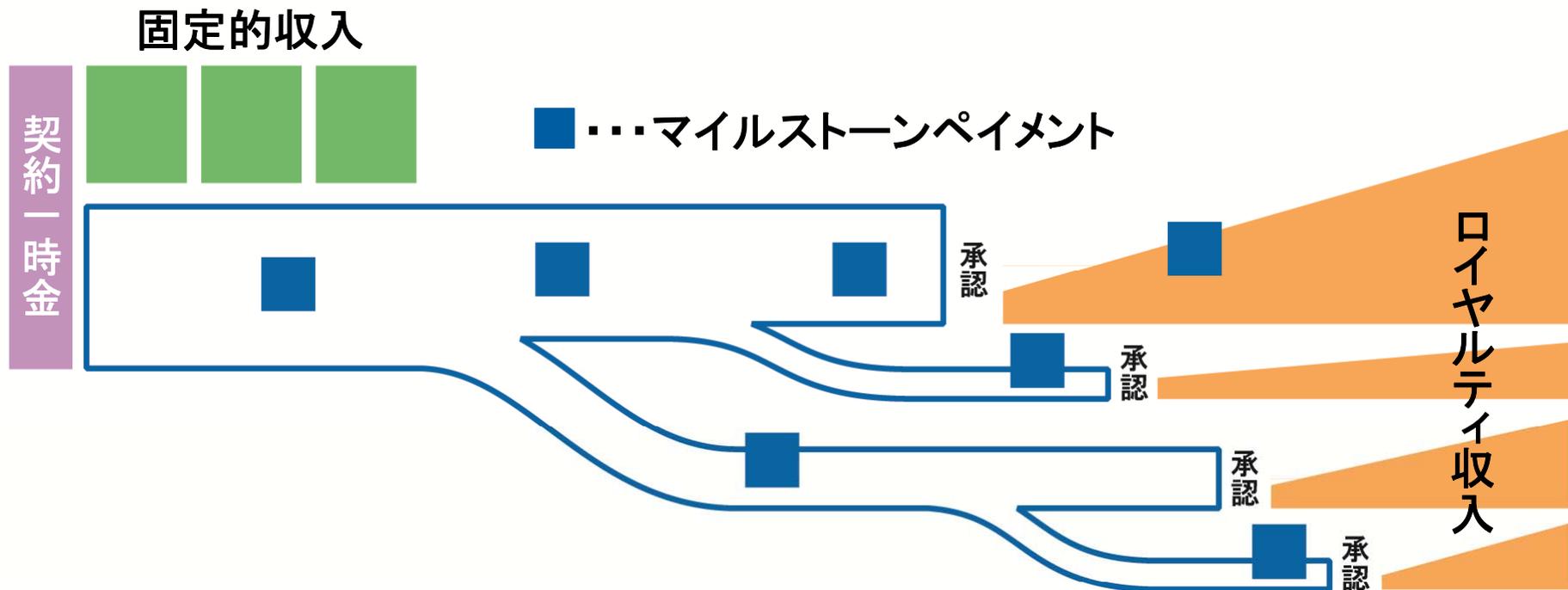
前期の主要適時開示

2014年7月～2015年8月

- CBP501バイオマーカー 論文掲載(2014年7月23日)
- 第1回無担保転換社債型新株予約権付社債 転換完了(9月8日)
第9回新株予約権 行使完了(2015年1月22日)
- CBS9106作用メカニズム 論文掲載(2014年9月25日)
- CBP9106日本特許査定受領(10月9日)
 - ✓ 当社の特許開示:各化合物について、米国・欧州・日本それぞれ最初の特許成立のみ
- 「継続企業の前提に関する注記」解消(11月14日)
- CBS9106 Stemline社とライセンス契約(12月26日)
- 第10回新株予約権発行(2015年6月22日)

Stemline社との提携

ライセンス契約に基づく収入モデル



※この図は一般的なライセンス契約の収益構造をご説明する目的でモデル化したものであり、開発の分岐数やマイルストーントリガーの数・位置などは、Stemline社との契約の内容を反映したものではありません。

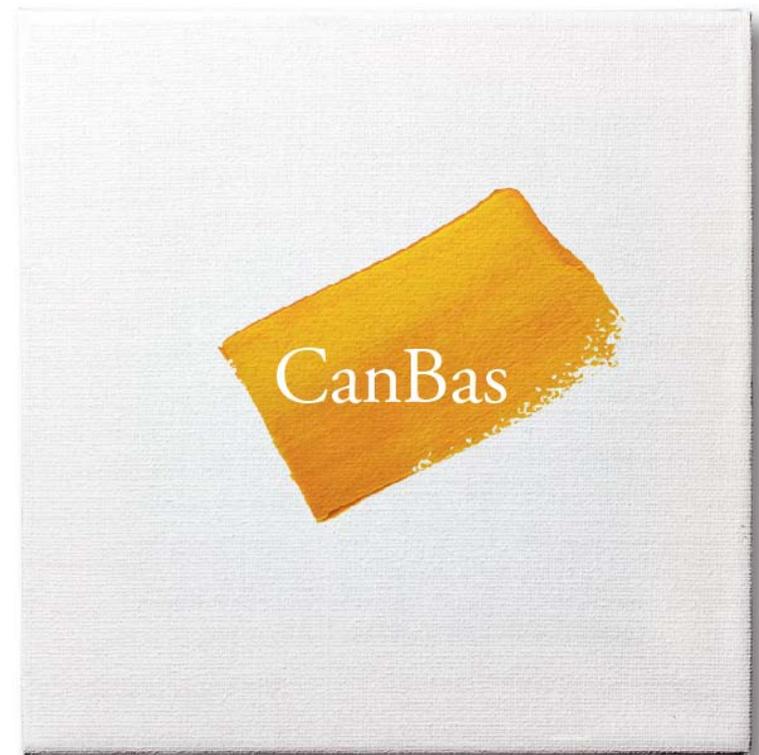
IRの拡充

■ テーマ: ReBorn

- ✓ 創薬ベンチャーとして新しいステージに突入したことを広報

■ 具体的施策

- ✓ ウェブ全面リニューアル
- ✓ マネジメントブログ
"CanBas' Canvas"開始
- ✓ FAQ充実
- ✓ Twitter公式アカウント開始
- ✓ 今後新たな施策も



Part 2
2015年6月期事業報告
～CBP501新知見と展開～

CBP501新知見

新たな仮説と検証

作用機序解析研究の結果から導かれた新たな仮説

CBP501は、その独特なカルモジュリン阻害作用を介して、癌細胞特異的にプラチナ系抗癌剤の細胞内濃度を高めるだけでなく、他の複数の(未知のものも含む)メカニズムが作用して抗癌活性を示しているのではないかと？

検証作業の結果

CBP501が

癌細胞の遊走能を抑制する

癌細胞の免疫原性細胞死を促進する

癌微小環境で癌の増殖や転移巣形成を促進するマクロファージを阻害する

癌の幹細胞を減らす

癌の転移に関与する上皮・間葉移行を抑制する

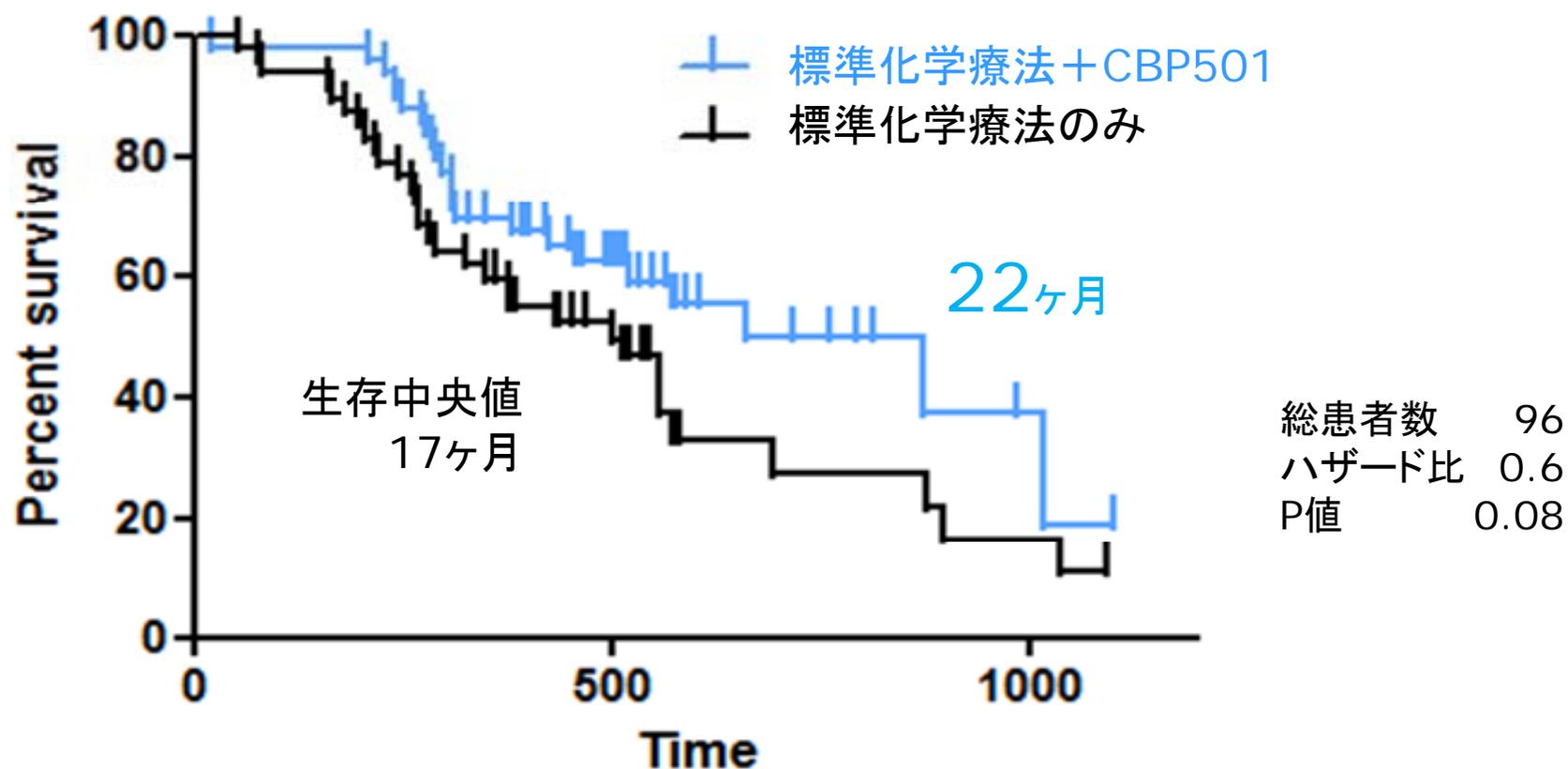
・・・ことが判明。

これらの知見によって、非小細胞肺癌臨床第2相試験のサブグループ解析も合理的に説明可能に

CBP501新発見

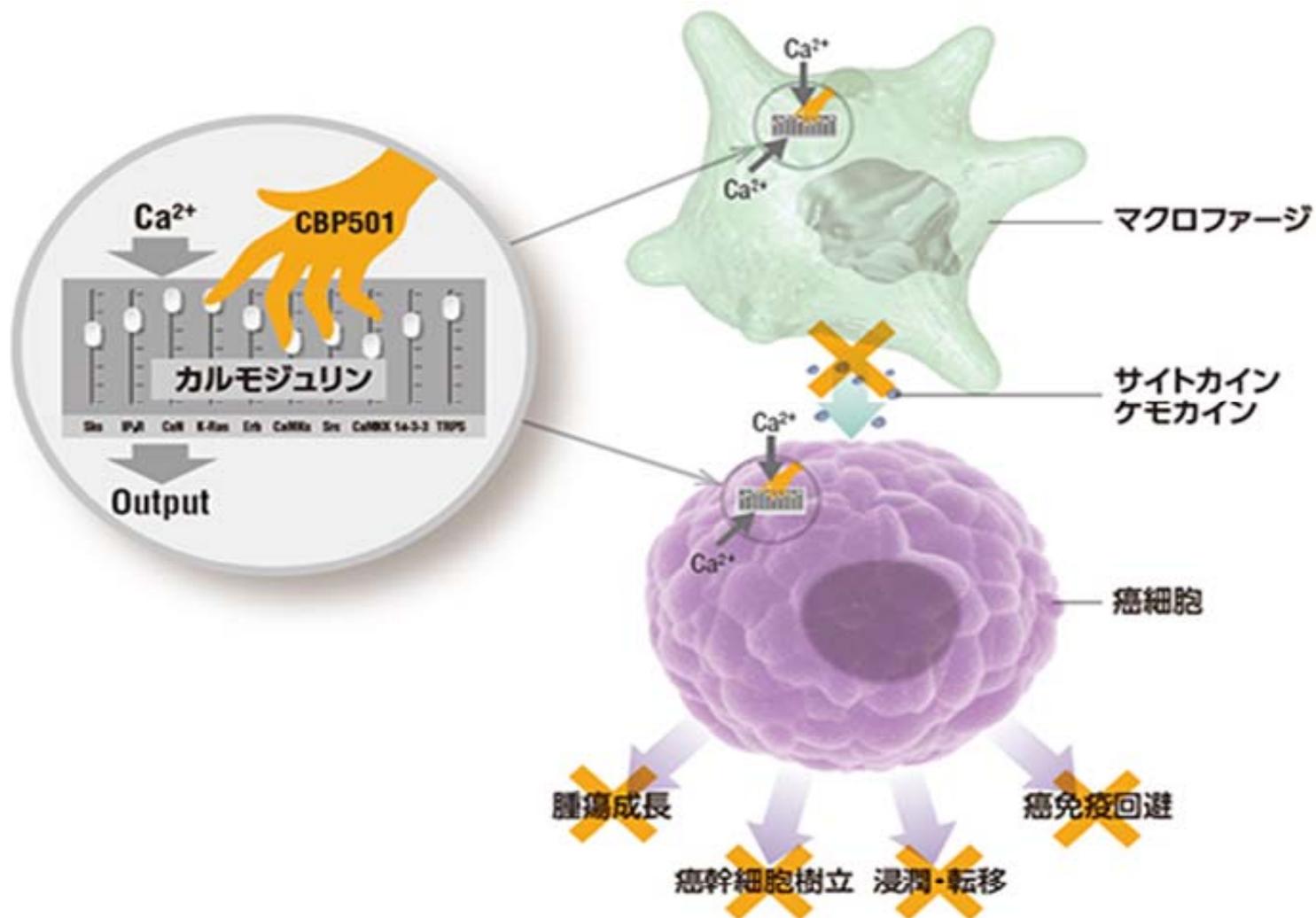
サブグループ解析

非小細胞肺癌臨床第2相試験のサブグループ解析による
標準化学療法のみ vs. CBP501+標準化学療法



CBP501の新知見

「カルモジュリン・モジュレーター」



CBP501 最新の知見

現実的な期待レベルの変化

《すでにわかっていたこと》

癌細胞特異的にプラチナ系抗癌剤の細胞内濃度を高め、その抗癌効果を高める



進行癌については副作用少なく延命。

アジュバント療法では、治癒する患者さんの割合を増やせるかもしれない。

《現在明らかになりつつあること》

癌細胞特異的にプラチナ系抗癌剤の細胞内濃度を高め、その抗癌効果を高めると同時に、その独特なカルモジュリン阻害作用を介して

癌細胞の遊走能を抑制する

癌細胞の免疫原性細胞死を促進する

癌微小環境で癌の増殖や転移巣形成を促進するマクロファージを阻害する

癌の幹細胞を減らす

癌の転移に関与する上皮・間葉移行を抑制する



進行癌についても、「治癒」に手が届き始めているかもしれない。

CBP501を深掘りすることで、これらの作用をさらに高める次世代開発品を創出できる。

CBP501 フェーズ2b試験

「臨床データを持っている」強み

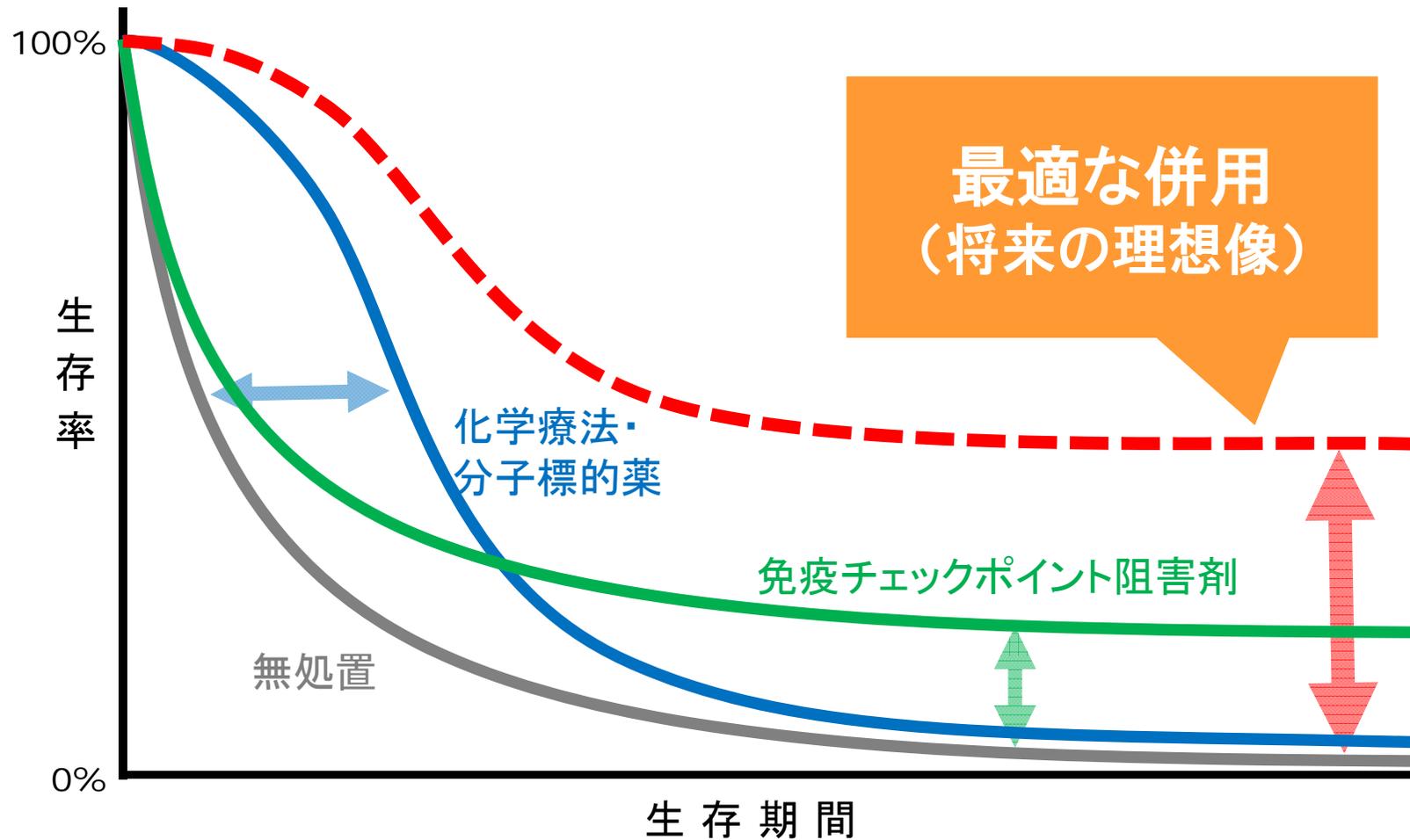
■ 一般の第2相試験



■ CBP501のフェーズ2b試験

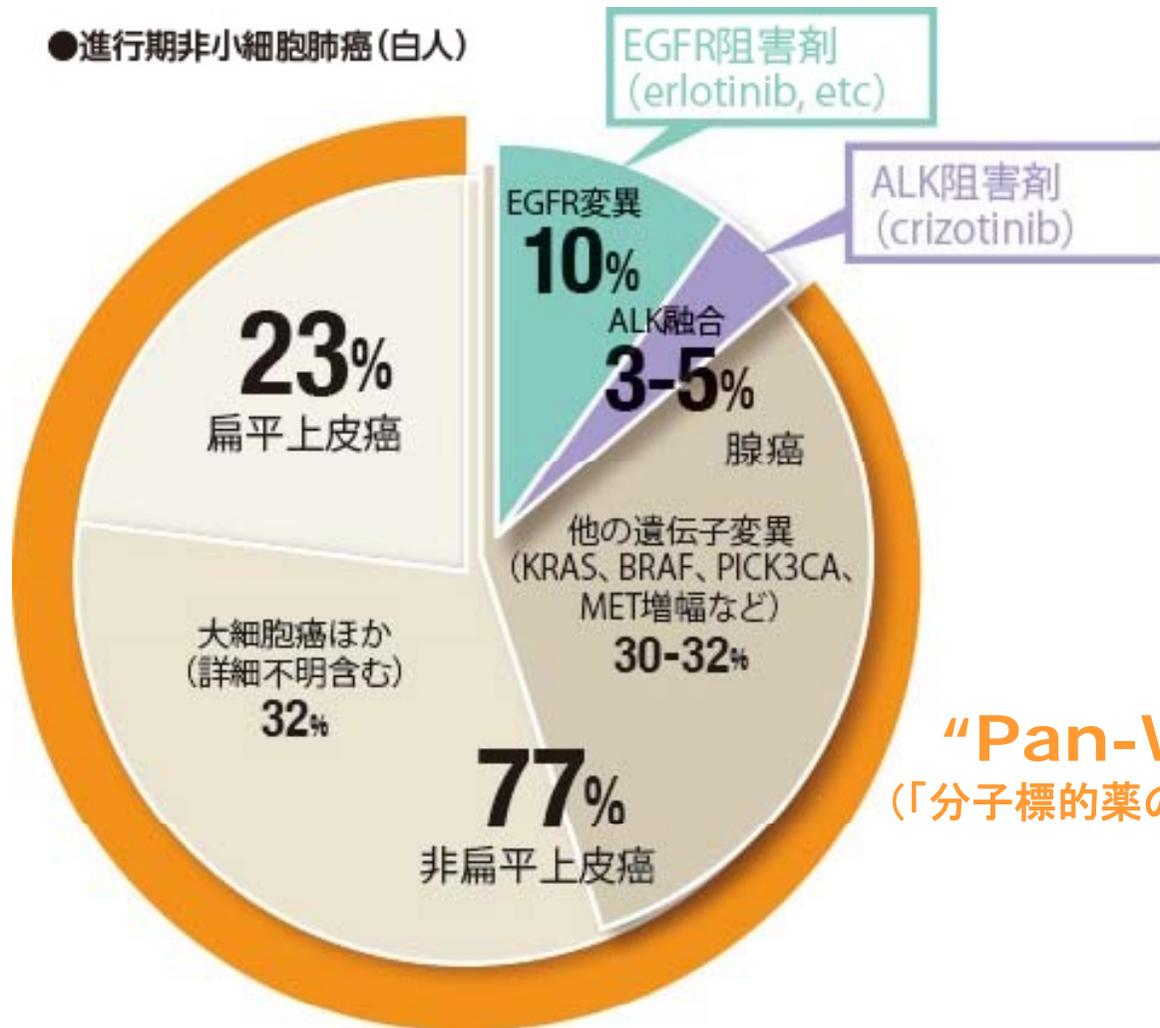


抗癌剤治療のパラダイム転換



Pan-Wild Type

●進行期非小細胞肺癌(白人)



“Pan-Wild-Type”
(「分子標的薬の対象にならない」領域)

今後の研究開発ビジョン

■ 短期・中期の目標

- ✓ 直近最大の目標・・・CBP501臨床開発進捗 → フェーズ2b試験
- ✓ 中期の目標・・・新規パイプラインの創出
 - CBP501のたどり着いた作用機序を突き詰め、第2世代を生み出す

■ 並行して進める事業

- ✓ Stemline社によるCBS9106/SL-801開発のサポート
- ✓ CBS9106に関する日本・中国・台湾・韓国での開発提携獲得
- ✓ CBS9106バックアップ・第2世代の模索
- ✓ 細胞の挙動に着目したスクリーニングによる新規抗癌剤候補探索

今後の研究開発ビジョン

